

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

カンキツにおけるミカンハダニ及びカイガラムシ類の冬期防除（技術情報
第12号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

秋期のミカンハダニ及びカイガラムシ類の発生量が平年に比べて多い状況です。このため越冬量も多くなり、春期の多発生が懸念されます。12月下旬から1月中旬に冬期防除のマシン油乳剤散布を徹底し、春期の発生密度を抑制しましょう。

1 発生状況等

- (1) 県内各地のカンキツ園で10月上旬から中旬に実施した巡回調査において、ミカンハダニ雌成虫の寄生葉率は7.7%（平年2.4%、前年1.2%）、寄生頭数は3.6頭/10葉（平年0.5頭、前年0.1頭）であり、寄生葉率・寄生頭数ともに、平年比多の発生であった（図1、2）。
- (2) 防除員報告では、10月のミカンハダニの発生は、平年よりやや多かった。
10月のカイガラムシ類の発生は6地域中5地域で平年よりやや多かった。

2 防除対策

本年は秋期のミカンハダニ及びカイガラムシ類の発生が多いことから、越冬量も多くなることが予想される。発生密度が高くなると防除が難しくなり、ミカンハダニは早期落葉、カイガラムシ類は枝枯れを引き起こし、樹勢が低下するため、越冬虫に対する冬期防除の実施により春期の発生を抑制することが重要である。冬期は以下に留意して防除対策を行う。

- (1) 越冬期のマシン油散布により春期の発生密度を抑制する。散布の際は樹全体にムラなくかかるよう丁寧に散布する。ただし、樹勢の弱い樹への散布や厳寒期での散布は落葉を助長する恐れがあるため、散布を控える。
- (2) カイガラムシ類は樹幹、枝、葉に寄生しており、枝葉の混みあった所に多発するため、せん定、整枝を行い、薬剤をかかりやすくするとともに、通風・採光を改善する。また、集中的な寄生がみられた枝は除去する。
- (3) マシン油乳剤は商品によって使用時期や希釈倍数などが異なる場合があるため、ラベルをよく確認し、農薬登録内容を遵守して使用する。

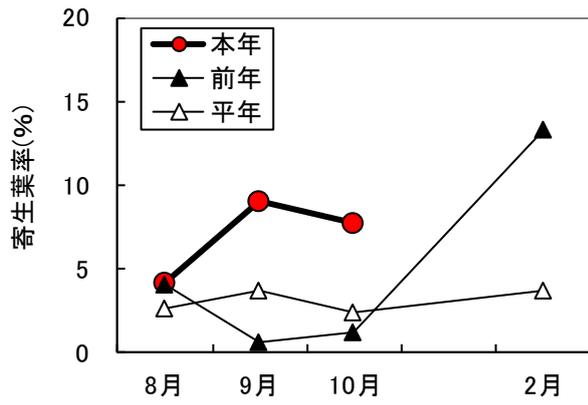


図1 ミカンハダニの寄生葉率の推移

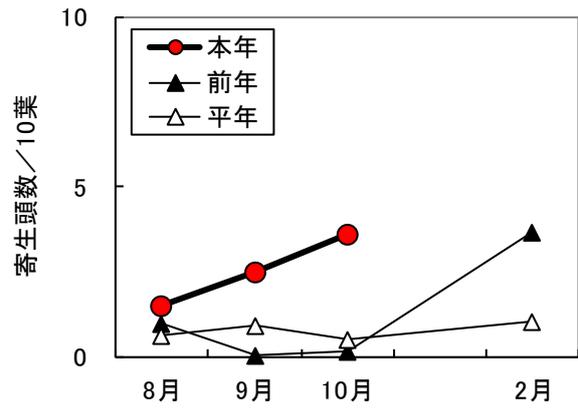


図2 ミカンハダニの寄生頭数の推移

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 予察指導室)
 担当：岡島、中村 TEL 096-248-6490